

## 若い女性の将来の身体像と被服観に関する一考察

石原 久代・大澤香奈子

### Young Women's Perception of Their Future Body Image and a View of Fashion

Hisayo ISHIHARA and Kanako OHSAWA

#### 緒 言

人は被服を着装する際、TPOだけでなく自己の体型や顔などを考慮した上で服種や着装法を選択する人が多い。ここでの自己の体型に対する判断は物理的寸法よりむしろ自己の身体像による場合が多いと考えられる。これら自己の身体像に関する研究は、身体像の自己評価要因や自意識との関係、あるいは理想的な身体像の研究など従来からいくつか行われているが<sup>1)2)</sup>、これらの研究は被験者の現在の身体像を心理的側面から扱った研究がほとんどであり、身体像と着装との関係を扱った研究は少ない。また、このような身体像は自己のみならず他者の着装評価にも少なからず影響を及ぼすと考えられ、特に若い女性の中高年女性への着装<sup>3)</sup>の評価には手厳しいものがある。

そこで本研究では若い女性を取り上げ、現在の体型に対する満足度を測定する<sup>4)</sup>とともに、15年後、30年後といった将来の自己の身体像に対する意見と被服観について調査し、体型変化を考慮した着装に対してのどのような意見をもっているかについて検討した。

#### 方 法

##### 1. 将来の自己の身体像と着装

若年女性の中高年女性への着装評価が、自己の将来の身体像に対する意見と被服観にどのように関わっているかについて検討するため、本学学生(19~20歳)80名を対象にアンケート調査を行った。調査は15年後、30年後の自分の将来を想定し、その時の家族構成、就業形態、身体的特徴および、夏冬それぞれの街着のデザイン画と着装ポイントについて記述形式で回答させた。それらの回答をもとに加齢に伴う体型変化の認識部位と、若々しさ、動きやすさ、清涼感あるいは保温性、身体負荷の軽減など着装上の留意点をポイント化するとともにデザイン画からシルエット、アイテムなどを読み取った。なお、調査は2001年7月に実施した。

##### 2. 現在の身体意識と他者への着装評価

他者への着装評価に関わる要素を捉えるため、先の調査と同一被験者を対象に着装に関わる被服観および身体意識と満足度の2点を中心としたアンケート調査を行った。

まず、着装に関わる被服観の項目については、服装について最も年齢を考慮した方がいいと思う項目、好きな色彩・柄・シルエット、35~40歳の人の服装にふさわしいと思う色彩・柄・

シルエット，ふさわしくないと思う色彩・柄・シルエット，50歳以上の人の服装にふさわしいと思う色彩・柄・シルエット，ふさわしくないと思う色彩・柄・シルエットなどを回答させた．色彩についての選択色はPCCS（日本色彩研究所配色体系）における色相・明度・彩度について均等にピックアップした71色（表4参照）<sup>5）</sup>とした．提示方法はこれら71色について縦1.5cm×横2.0cmの大きさに切断した色票をN6.5のグレーの台紙に貼付したカラーチャートを提示して選択させた．柄については，太い縦縞，細い縦縞，太い横縞，細い横縞，大きなチェック，小さなチェック，幾何学模様，大きな花柄，小花柄，大きな水玉，小さな水玉，ペーズリーの12柄から選択させ，シルエットについては図1に示したような8シルエットの図を提示して選択させた．



図1 提示シルエット

また，身体意識と満足度についての調査項目は被験者の現在の身長，理想的と思われる身長，体重，バスト寸法，ウエスト寸法，ヒップ寸法，現在の体型についての満足度，不満足な身体部位，不満足点に対して気をつけている着装方法，将来についての結婚・職業に関する願望などについて回答させた．

なお，検査は先のアンケートに関連する項目も存在するため，連鎖的な回答の歪を排除するために約1年後の2002年6月に実施した．

得られた結果について単純集計の後，クロス集計等を用いて解析し，被服観と着装評価に関わるイメージ要因との関連を検討した．

## 結果および考察

### 1. 自己の身体意識と着装

自己の身体における満足度が他者の着装評価にも影響を及ぼすことが考えられるため，まず，表1に被験者の実際の身長と理想の身長との関係をクロス集計した結果を示した．この結果から理想の身長は，最低値が154cm，最高値が170cmであり，被験者の実際の身長の方が幅広く分布している．また，実際の身長と理想の身長との間の相関は認められず，低い身長の人が高い身長を理想とする，あるいは高い身長の人が長身を理想とするなどの傾向はみられなかった．

次に理想の身長と体重についての分布図を図2に示した．図中に平均値をプロットしたが，身長が161.0cm，体重が46.4kgであった．この図から身長が155～156cmの比較的低い身長の場合でも体重は47～48kgなどをあげており，瘦身体願望というよりむしろ現実に近い体型を理想としている場合が多い．また，周り寸法の理想値の平均はバストが84.1cm，ウエストが58.4cm，ヒップが83.9cmであった．図3にバスト寸法とウエス寸法の分布図を示したが，ウエスト寸法については58～60cmに比較集中しているのに対してバスト寸法は76cm～90cmとかなり広範囲に出現しており，理想のバストサイズには個人差が大きいことが判明した．

また，現在の自分の体型についての満足度は，「非常に満足」と回答した被験者は全くおらず，

表1 実際の身長と理想の身長のクロス表

			理想の身長(cm)					合計
			150～155	155～160	160～165	165～170	170以上	
実際の身長 (cm)	145未満	度数			1			1
		総和の%			1.25			1.25
	145～150	度数		1	9	2		12
		総和の%		1.25	11.25	2.5		15
	150～155	度数	1	7	5	6		19
		総和の%	1.25	8.75	6.25	7.5		23.75
	155～160	度数		8	17	4		29
		総和の%		10	21.25	5		36.25
	160～165	度数	1	3	3	4	1	12
		総和の%	1.25	3.75	3.75	5	1.25	15
	165～170	度数			4	2		6
		総和の%			5	2.5		7.5
	170以上	度数				1		1
		総和の%				1.25		1.25
	合計	度数	2	19	39	19	1	80
		総和の%	2.5	23.75	48.75	23.75	1.25	100

「やや満足」が8.8%、「やや不満足」が53.7%、「非常に不満足」37.5%と全体的に満足度が低い結果であった。そこで、「やや不満足」および「非常に不満足」に回答した被験者を対象に不満足な身体部位について回答させた結果を図4に示した。特に顕著に現れたのは、「太っている」、「足が太い」の2項目で、次いで「背が低い」、「ウエストが太い」、「腕が太い」などがあげられ、特に太さ項目での満足度が低いという結果であった。

これらの不満足点の上位2項目に関して、着装上留意していることを自由記述させた結果を表2にまとめた。まず、「太っている」の項目に対しての着装上の留意点として最も多かったものは、「引き締まって見える色を着用する」で、「ぼやけた色はさける」、「暗い色を着用する」、「細く見える色柄を選ぶ」などをはじめとして全体的に色彩に関する意見が多いといえる。また、「肌を露出しない」、「露出を少なくする」、「短いスカートは着用しない」など肌を露出させる

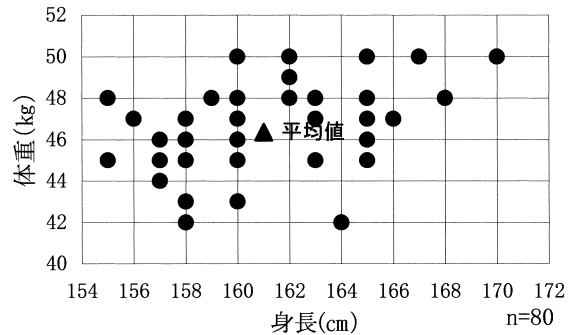


図2 理想の身長・体重の分布図

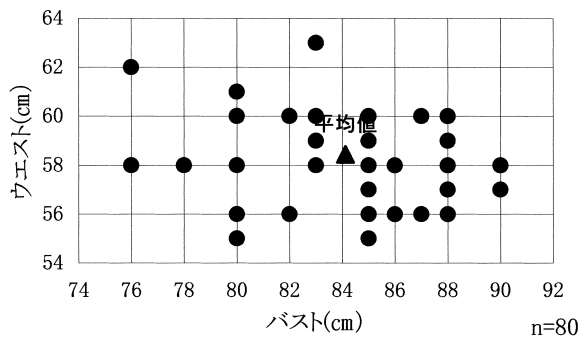


図3 理想のバスト・ウエスト寸法

と太って見えると考えていることが判明した。

また、「足が太い」の不満足点に対しての留意点は、「足がスリムに見えるデザインを選ぶ」、「シルエットがきれいなパンツを選ぶ」、「スカートの丈に注意する」など、ほとんどデザインに関する項目があげられた。しかし、ここでは「太めのパンツを着用しない」という意見がある一方で、「ゆったりしたパンツを着用する」、あるいは「長いスカートは着用しない」に対して「短いスカートは着用しない」など、同じ細く見せるための着装法であるにも関わらず、全く逆の意見が得られており、個人的思い込みによる着装方法が窺われる。

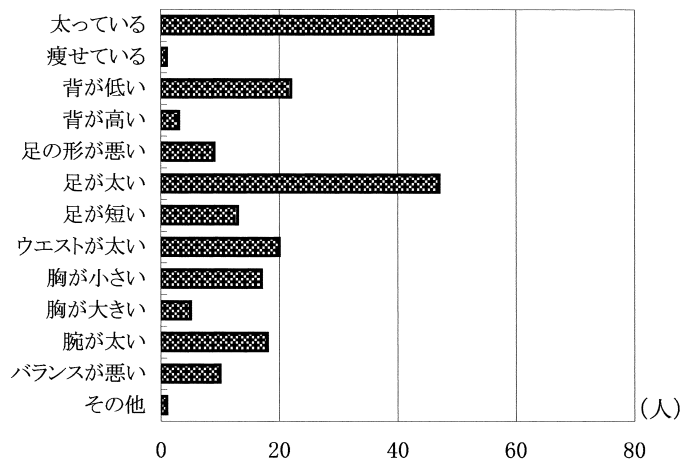


図4 自己の身体における不満足項目

表2 身体の不満足項目に対する着想上の留意点

「太っている」に対して	「足が太い」に対して
引き締まって見える色を着用する	足がスリムに見えるデザインを選ぶ
ぼやけた色は避ける	シルエットがきれいなパンツを着用する
暗い色を着用する	スカート丈に注意する
濃い色を着用し、ボーダーを着用しない	中途半端な丈を着用しない
細く見える色柄を選ぶ	膝丈のスカートを選ぶ
太って見えない色やデザインを選ぶ	長いスカートは着用しない
色や形を吟味する	短いスカートは着用しない
露出を少なくする	身体の細い箇所が見える丈を選ぶ
肌を露出しない	パンツ丈に注意する
短いスカートは着用しない	太目のパンツを着用しない
腹や尻を隠す	フレアパンツを着用しない
太っている部分を目立たせない	ゆったりしたパンツを選ぶ
身体のラインの出ないものにする	タイトなパンツを着用しない
ピッタリした服は着用しない	目立たないものを着用する
ジャストサイズにする	身体のラインの出ないものにする
丈の短いトップスを着用しない	コーディネートのポイントを上に置く
短いジャケットは着用しない	ボトムスに濃い色を着用する

## 2. 将来の自己の身体像と着装

若年女性が中高年女性の着装を評価する際に、加齢に伴う体型変化が捉えられているかどうかをみるために、15年後および30年後の自己の身体像を現在と比較して、どのように変化していると思われるかを記述形式で回答させた。その結果を図5にまとめた。最も多くの被験者が

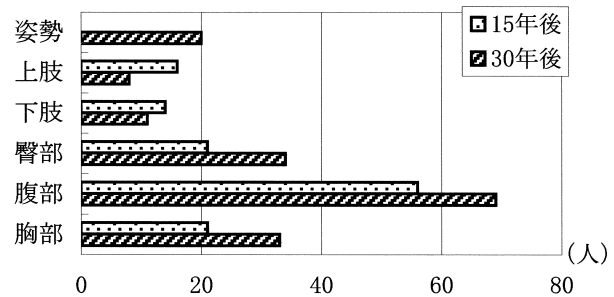


図5 自己の将来の身体像における体型変化

あげていたのは、15年後、30年後ともに腹部の変化であり、腹部寸法の増大、腹部の突出などの意見で表現されていた。次いで臀部、胸部があげられているが、これらの部位の変化は寸法よりむしろ形の変化をあげており、筋肉の老化に伴う臀部の下垂、バストポイントの下垂などが多くを占めていた。また、上肢の変化は15年後で20%の被験者があげており、特に上腕が太くなると考えている。さらに、姿勢の変化については、15年後では全く触れられていないが、30年後では25%の人が体型変化にあげており、全体的には概ね加齢に伴う体型変化は正確に認識されていると考えられる。

次に、これらの体型変化を念頭において15年後、30年後の装いで考慮する点について表3にまとめた。まず、15年後についてみると、「きれいなシルエットのものを着用する」、「ウエストマークする」、「尻が目立たないようにする」、「ボトムスに濃い色を選ぶ」などがあげられ、下半身を細く、シルエットを美しく見せることに気遣った項目が多い。また、色彩についても、パステルカラーなど明るい色を着用するという意見もあげられており、おしゃれ感覚が窺える。一方、30年後では、「ゆとりのある服を着用する」、「ウエストはゴムのものを着用する」、「ウエストにゆとりのあるものを着用する」、「ストレッチの効いたものを選ぶ」、「太めのパンツを着用する」など、身体機能の低下を考慮してか、身体を拘束させないことへの配慮が具体的に多くあげられている。

表3 体型変化を意識した着想における留意点

15年後	30年後
きれいなシルエットのものを着用する	ゆとりのある服を着用する
尻が目立たないようにする	身体のラインが出ないようにする
ピッタリフィットするものは着用しない	ウエストはゴムのものを着用する
柄は小さめのものにする	ウエストにゆとりのあるものを着用する
スカート丈に気をつける	スカート丈に気をつける
丈が長すぎないものを着用する	丈の長めのトップスを着用して隠す
ストレッチの効いたものを選ぶ	少し大きめのトップスを着用して隠す
大きく露出しないようにする	トップスをアウトに着て隠す
トップスをアウトに着て隠す	ストレッチの効いたものを選ぶ
引き締まって見える色を選ぶ	広い襟ぐりのものは着用しない
ボトムスには濃い色を選ぶ	肌を露出しない
明るい色を着用する	太目のパンツを着用する
明るいパステルカラーを選ぶ	ロングスカートを着用する
ウエストマークする	ダークトーンなど落ち着いた色を着用する

次に、図6に街着について夏・冬の着装上の留意点について示した。まず、夏の着装上の留意点について15年後、30年後の装いを全体的に捉えると、15年後では若々しさが最も高く、次いで避暑性の順となっているが、30年後では体型を隠すが最も高く、次いで、若々しさ、身体への負荷の軽減、動きやすさの順となっている。どちらも若々しさが入っており、おしゃれを楽しむという姿勢が窺えるが、30年後になると体型の変化がかなり意識されてくると考えていることが明らかになった。一方、冬用の街着の場合、15年後では保温性が最も高く、次いで若々しさの順であるが、30年後では同じく保温性が最も高いものの、次いで体型を隠す、若々しさ、身体負荷の軽減があげられ、やはり年齢による身体的特性がよく捉えられていると思われる。

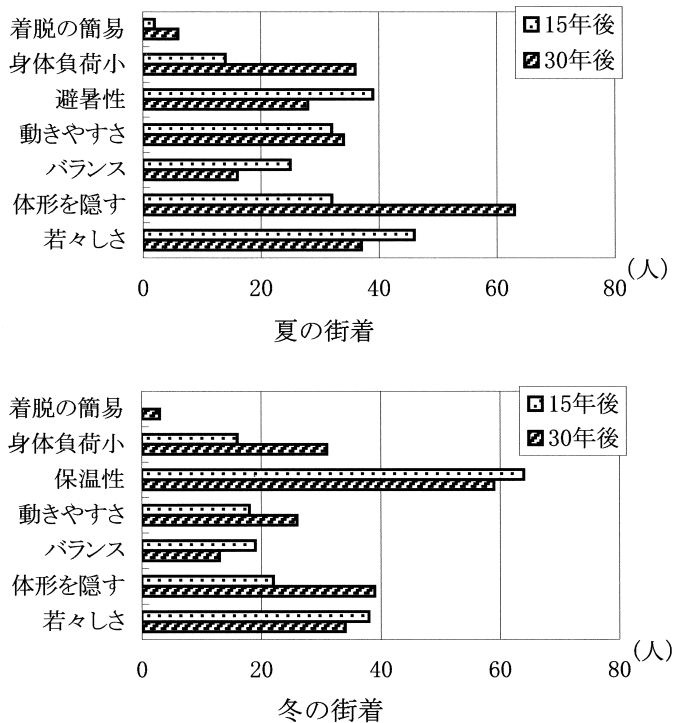


図6 夏冬の街着についての着想上の留意点

### 3. 中高年女性に対する着装評価に関与する要因

まず、着装において最も年齢を考慮すべき要素について回答させたところ、47%が色彩をあげ、次いでデザインが40%、柄9%、材質4%という結果であった。

そこで、上位にあげられた色彩、デザイン(シルエット)、柄について、35歳から40歳代と50歳以上の女性を着装者として考えたとき、ふさわしいと考えるものとふさわしくないと考えるものを選択させた。

表4に最も年齢を考慮すべき要素にあがった色彩について示した。両年代とも全体的にふさわしくないと考える色彩に比べ、ふさわしいと考える色彩の方が多かった。35歳から40歳代で、最もふさわしいとされた色彩はBk(黒)で14名があげている。次いでlt16(浅い緑みの青)、W(白)、d6(黄みの茶)の順となっている。トーン別にみるとライトトーンといった明るい色彩が多く支持されている。また、50歳以上で最もふさわしい色彩はg10(灰みの緑)、g18(灰みの青)、Bkの3色があげられるが、頻度としては6名とそれほど多くない。次いでdk12(暗い緑)、dk18(暗い青)、d20(にぶい青)、lt20(浅い青紫)が5名と続いているが、全体的にダークトーンやグレイッシュトーンの青、青紫の色相があげられている。逆に、35歳から40歳代でふさわしくないと考える色は、v2(さえた赤)が19名と最も多く、次いでv8(さえた黄)、v4(さえた赤みの橙)、v24(さえた赤紫)など暖色系のビビットトーンの色相が多くあげられてい

る．50歳以上で最もふさわしくない色彩はv4が最も多く29名と約35%の人があげ、次いでv2，v6（さえた黄みの橙）などがあげられるが、色相に関係なくビビットトーンの色彩が上位にきている．この点は自己認知の着装評価に共通した傾向がみられた．また、白・黒などの無彩色は特に35歳から40歳代で多く支持されている．

次に、デザインはシルエットという形で提示し、各年代にふさわしいと思うシルエット、逆にふさわしくないと思うシルエットをまとめて図7に示した．若年女性が中高年女性の装いにふさわしくないと考えたものは、35歳から40歳代においても50歳以上においてもバレルラインが上位にあがっているが、このシルエットはふさわしくないというより、普段からあまりなじみがなく、被験者が現在において最も好まれないシルエットであることから、どの年代にも受け入れられなかったものと思われる．それ以外のシルエットをみると、35歳から40歳代ではトライアングルライン、スリムライン、テントラインがあげられた．それに対して50歳以上では、スリムラインがかなり多く、次いでXラインの順となっており、ウエストの細いラインはふさわしくないという考えがはっきりと表れている．逆に、ふさわしいと考えるシルエットは、どちらの年代もトラペーズラインが最も多く、次いで35歳から40歳代ではストレートライン、スリムラインの順であるのに対し、50歳以上ではテントライン、ストレートラインとなり、テントライ

表4 中高年女性の装いとして評価する色彩（頻度）

色彩	ふさわしい		ふさわしくない	
	35歳	50歳	35歳	50歳
v2	2	2	19	27
v4	1	0	15	29
v6	3	3	7	13
v8	4	3	18	7
v10	1	3	5	5
v12	0	1	4	4
v14	1	1	3	2
v16	0	0	4	1
v18	1	1	1	5
v20	2	1	1	0
v22	1	2	7	7
v24	5	1	11	9
lt2	0	1	7	2
lt4	3	0	2	2
lt6	2	2	0	1
lt8	1	3	1	1
lt10	3	1	0	0
lt12	4	1	1	1
lt14	2	2	0	0
lt16	9	2	1	2
lt18	5	2	0	0
lt20	4	5	1	0
lt22	6	3	0	1
lt24	3	3	10	8
d2	4	1	0	0
d4	1	1	0	0
d6	8	3	1	0
d8	3	1	0	0
d10	5	4	0	0
d12	3	1	0	0
d14	0	0	0	0
d16	3	1	0	0
d18	2	3	0	0
d20	1	5	0	0
d22	0	2	0	0
d24	2	2	0	0
dk2	2	3	0	0
dk4	2	3	0	0
dk6	3	2	0	0
dk8	1	3	5	1
dk10	3	2	0	1
dk12	1	5	0	1
dk14	0	3	0	0
dk16	0	2	0	0
dk18	0	5	0	0
dk20	0	2	0	0
dk22	1	4	1	0
dk24	2	4	4	1
p2	1	0	3	2
p6	3	4	1	1
p10	2	1	1	0
p14	5	1	1	1
p18	3	2	1	2
p22	4	4	0	0
g2	1	3	4	1
g6	2	3	8	8
g10	0	6	2	3
g14	0	4	3	1
g18	1	6	2	2
g22	0	1	4	1
dkg2	0	2	0	0
dkg6	1	2	0	2
dkg10	1	1	1	2
dkg14	0	1	0	0
dkg18	1	1	0	0
dkg22	1	1	0	0
w	8	4	0	1
Gy7.5	0	1	0	0
Gy5.5	1	1	0	1
Gy3.5	1	0	0	0
Bk	14	6	0	1

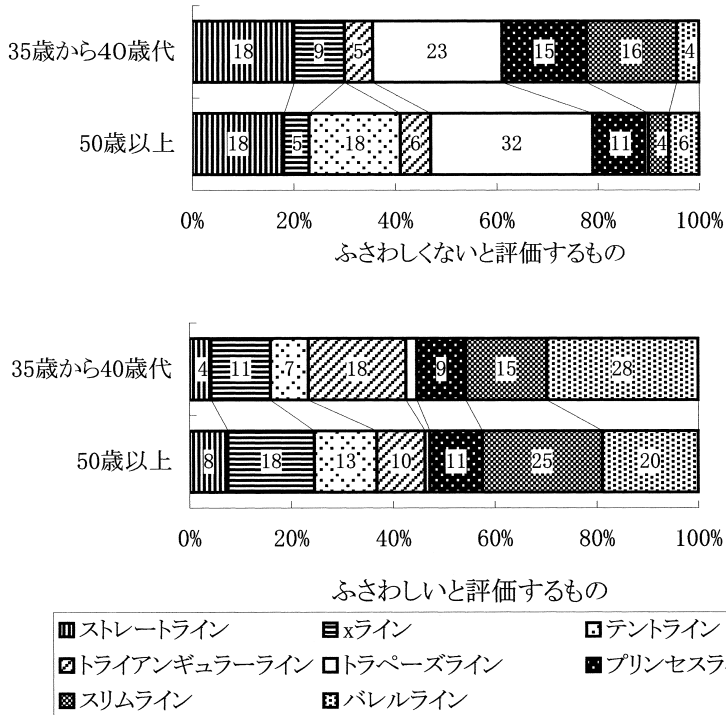


図7 中高年女性の装いとして評価するシルエット

ンに関しては35歳から40歳代では出現は少なく、年代とともに増加するというより、身体の動きを拘束しにくいという点を考慮してこの年代で特に出現したと考えられる。なお、現在の自分の好きなシルエットとしてはストレーラインが最も多く、次いでプリンセスライン、Xラインがあげられており、確実に年代による区別がなされているといえる。

柄について、各年代にふさわしいと思う柄、ふさわしくないと考える柄をまとめて図8に示した。若年女性が中高年女性の装いにふさわしくないと考えるものはどちらの対象年代も、上位から大きな水玉、大きなチェック、大きな花柄の順であった。調査した12種類の柄の中で太い縦縞を除いて、年代間に順位の相違は見られなかった。太い縦縞についても差は小さく、ふさわしくないと考える柄は同傾向にあるといえる。

逆に、ふさわしいと考える柄は、35歳から40歳代で小花柄が最も多く、次いで小さなチェック、細い横縞、細い縦縞であった。また5位にあるペーズリーは、50歳以上では最もふさわしい柄としてあげられており、反対に35歳から40歳代で2位にあげられた小さなチェックは17%から7%にまで減少している。全体的な傾向として35歳から40歳代では、比較的小さな柄がふさわしいと考えられ、50歳以上ではチェック柄は、柄の大きい小さいに関わらず支持されていなかった。なお、現在の自分の好きな柄としては小さなチェック、細い縦縞、細い横縞、小さな水玉の順であげられており、35歳から40歳代で多かった小花柄や50歳以上で多かったペーズリーは非常に少なく、柄についても年代による差が意識されているものと考えられる。



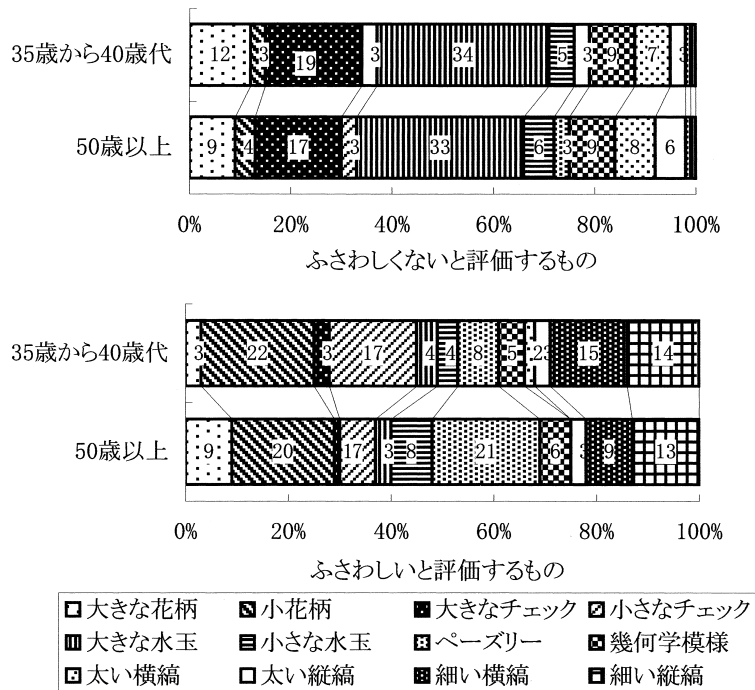


図8 中高年女性の装いとして評価する柄

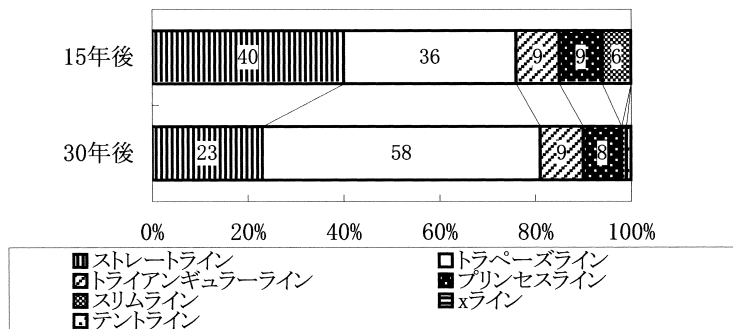


図9 若年女子が将来像として考えた着装のシルエット

#### 4. 自分の将来像としてのコーディネートシルエット

若年女性が将来の自分の装いとして考えたデザイン画からシルエットを読み取って整理した結果を図9に示した。まず、15年後のスタイルとしてはストレートライン、トラペーズラインで80%近くを占めている。30年後ではトラペーズラインが58%にもなり、ストレートラインは23%に減少している。また、15年後でわずかに見られたスリムラインは、30年後では全く見られなかった。

この結果は、自分の将来像として考えた着装が、1年後の検査で回答している自分の将来像

と切り離れた他者評価における各年代にふさわしいと評価した上位2つのシルエットとほぼ同じものを選択したのとなっており、そこには確実に年齢を意識したシルエットが存在するといえる。

以上のことから、若年女性は身体に対する満足度が低く、特に太さ項目において否定的な意識が強くみられ、これらの不満足点に関して、着装によってカバーしようとする姿勢が窺えた。しかし、色彩についてはおよそ有効に着用されているものの、デザインや柄については、各自の思い込みによって着装されており、着装効果という面での知識不足といった現状の問題点も浮かび上がってきた。

また、中高年女性の着装に対する評価は、加齢に伴う体型変化をふまえた理論的な身体像が概ね把握され、着装はバランスを整え、動きやすさや身体負荷の軽減に配慮するべきだと考える傾向にあるものの、ここでも、そのための適切な着装が理解されているとはいえず、被服教育の中で具体的な着装についての教育の必要性が明らかになった。

## 要 約

若い女性を対象に、現在の体型に対する満足度を測定するとともに、15年後、30年後といった将来の身体像に対する意見と被服観について調査した結果、理想とする体型の平均は身長161.0cm、バスト84.1cm、ウエスト58.4cm、ヒップ83.9cm、体重46.4kgであった。また、現在の自分の体型についての満足度は91%の人が不満足と答えており、特に太さ項目において満足度が低く、体や足が太いという回答が目立った。

一方、中高年の着装に対して年齢を考慮すべき要素として、色彩とデザインでほぼ9割を占めた。また、加齢に伴う体型変化は胴・腹部の充実や姿勢が悪くなるなど概ね理論的な身体像は把握され、将来の着装はバランスを整え、動きやすさや身体負荷の軽減への配慮が必要と考えている。さらに、中高年女性にふさわしいと考えるシルエットはトラペーズラインやストレートライン、柄は小花や細い縦縞で、逆に大きな水玉や大きなチェック柄、ビビットーンおよび赤系統の色はふさわしくないと考えていることが明らかになった。なお、中高年女性の装いにふさわしいと評価する装いは、自らの将来像の装いとほぼ一致するものであった。

## 文 献

- 1) 牛田聡子他：身体像の評価に影響を及ぼす個人差要因，織消誌41・11 59～69 (2000)
- 2) 布施谷節子他：女子短大生のからだつきに対する意識とそれを形成する要因，家政誌49・9 1037～1044 (1998)
- 3) 辻啓子：50代の今後の衣生活に対する関心，家政誌41・6 517～525 (1990)
- 4) 高森壽：女子高校生の自己の体型に関する意識と夏期用衣服の色彩嗜好，家政誌42・12 1085～1093 (1991)
- 5) 加藤雪枝他：生活の色彩学，92～95 朝倉書店，(1990)